



定期接種スケジュールには含まれていませんが、日本小児科学会が接種を推奨しているワクチンがあります。今回は「3種混合ワクチンについて」のお話です。

3種混合ワクチンとは、ジフテリア、破傷風、百日咳のワクチンです

①ジフテリア

ジフテリア菌による感染症です。発熱、のどの痛みなどで始まります。のどに白い膜ができたり、首のリンパ節が腫れたりします。ジフテリア菌は毒素を出し、この毒素が心臓の筋肉や神経に作用することで心不全や呼吸に必要な筋肉の麻痺などをきたして、重い病気になる場合があり、かかった人の5~10%が死亡します。

ジフテリアの診断は、患者さんの鼻やのどからジフテリア菌を見つけることです。日本におけるジフテリアの発生は1999年の報告が最後ですが、ワクチンが普及する以前には年間8万人以上の患者さんが発生していました。海外、特に東ヨーロッパや東南アジアなどでは小さな流行がまだ報告されています。ワクチン接種をしなければ、日本でも再び流行しうる病気で

感染経路は飛まつ感染です。咳で人から人へ感染します。潜伏期間は2~7日です。



②破傷風

破傷風菌による感染症です。主に傷口から入り込んだ破傷風菌が毒素を出し、それがさまざまな神経に作用します。口が開きづらい、あごが固くなるといった症状に始まり、歩きづらい、排尿・排便の障害などを経て、最後には全身の筋肉が固くなり体を弓のように反り返らせたり、息が出来なくなります。破傷風は、かかった人の約30%が死亡する非常に重い病気です。

国内では、以前は新生児の発生もみられましたが、近年は高齢者をを中心に年間約100人前後の患者さんが発生しています。ワクチンを接種していない子どもが感染したという報告もあります。

感染経路は接触感染です。傷口からヒトの体内に入ります。潜伏期間は3~21日です。

③百日せき

突然激しく咳き込み、その後ヒューという笛の吹くような音が聞こえる咳が特徴です。咳き込んで吐くこともあります。生後3ヶ月未満の赤ちゃんでは、息ができなくなり、ひどい場合は死亡することもあります。風邪のような症状で始まり、時代に咳の回数や程度が激しくなります。発熱は、ないか、もしくは微熱程度。咳の症状が進むと、顔を真っ赤にししながら息をつめてコンコンと短く連続的にせきこんで、息を吸うときにヒューと笛のような音が聞こえる、百日せきに特徴的な発作性のけいれん性の咳が起るようになります。こうした発作性の咳は、夜間に多く起こります。咳が起らない時には無症状ですが、刺激が加わると発作性の咳が誘発されます。激しい発作性の咳は2~3週間にわたって続き、徐々に起らなくなります。

回復には2~3か月ほどの期間を要します。ワクチンで免疫ができますが、時間が経つとワクチンの効き目が減っていきます。国内では、毎年約3000の小児科機関から数千人の患者さんが報告されています(2018年から全数届出となりました)。

感染経路は飛まつ感染です。咳で人から人へ感染します。

潜伏期間は5~21日(多くは7~10日)です。



なぜ、3種混合ワクチンの追加接種が推奨されているの？

3種混合ワクチンに含まれている百日咳の抗体が4歳ころから低下しているということが分かったからです。百日咳は年齢が上がるほど重症化しづらいと言われていますが、乳幼児がかかると重症化する場合があります。

2019年は15974人の百日咳患者さんが報告され、特に小学生に多くみられました。百日咳は感染力が強く、飛沫感染や接触感染によって周囲の人に感染が広がります。保護者やきょうだいに広がる「家族内感染」を起こしやすく、百日咳ワクチンを接種していない乳幼児は90%以上が感染するとされています。乳幼児が百日せきにかかると重い症状が出やすく、特に6か月以下の乳児では死に至る危険性もあります。

百日せきに対しては、**ワクチンによる予防が最も効果的**です。乳幼児期に定期接種する4種混合ワクチンで百日せきに対する免疫を獲得できますが、年月の経過とともに百日せきに対する免疫が低下します。そのため5~15歳で百日せきにかかる患者さんが増えています。そこで、百日せきに対する免疫を維持するために、小学校入学前に任意接種として3種混合ワクチンを追加接種することや、11~12歳で定期接種する2種混合ワクチンの代わりに任意接種として3種混合ワクチンを追加接種することが日本小児科学会から推奨されています。四種混合ワクチンにも百日咳が含まれていますが、このワクチンは4回しか接種出来ないことになっています。そのため、追加接種は三種混合ワクチンでの接種となります。**(当クリニックでは完全予約になっていますので、接種のご希望がありましたらお電話などでお問い合わせください。)**



百日咳から赤ちゃんを守ろう

百日せきは、小児を中心としてあらゆる年代の人がかかる病気です。最近では、成人の百日せきの感染も増加しており問題になっています。成人が百日せきに感染すると、長期間にわたり咳が持続しますが、軽症が多いとされています。百日せきに特徴的な発作性の咳が少なく、必ずしも百日せきと診断されないことがあります。感染力はあるので、**知らず知らずのうちに赤ちゃんを含む周囲の人に感染を広げることが危惧されています**ので、生後3か月に達したら速やかにワクチンを接種することが大切です。予防接種は**不要不急の外出に当たらず、しっかり受けるべき**という見解が日本小児科医師会からも出されています。これから接種のお子様はワクチンを接種するスケジュールを立てておきましょう。

定期接種の四種混合ワクチンはWebでも予約可能です。クリニックのホームページを確認してください。



今月の絵本



りすのクラッカー

ぬいぐるみになりたい子リスのクラッカーの小さな冒険。ネコに見つかったりちよっぴりハラハラ!! 無事におうちに帰れるかな?

(事務: 前野)

ルース・エインズ・ワース 作
こうもと・さちこ 訳・絵

クリニックの本棚にあるよ!

りすのクラッカー



おしらせ

★スタッフ紹介★
(看護師) 佐々木

(4月から勤務しています)

知美
よろしくお願ひ致します m(_ _)m



次回もおたのしみに~